

藩翰譜

附録

十一

			和書門類
三八	一	八九	
七	九	四	
冊	架	函	號

庫	文	閣	内
函	架	冊	號
一五	八	九	和書類

内閣文庫	
番號	和 8994
冊數	37 (13)
函號	155 59



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

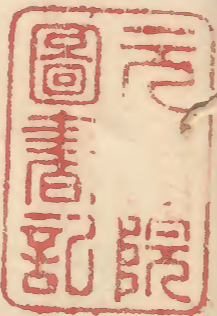
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



二藩翰譜十一

下野守

七郎

上郎

後河守

竹谷

主蕃
松平

水野

大須賀

平岩

如多

高力

天股

菅沼

北条

山岡

小笠原

皆川

酒井

堀



流河の海をわたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の

七節

七節の海に舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の
太人保わたりて事繁く舟を乗せしむるは流河の

海をひらきわたるはなはたかきつゝあつた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた

つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた
つりまはしつゝかたしはあつたのちかた

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

水師

澤正少將係分長は吉原のちよ友 油川政信の従 子八の田友市
太分の藩守忠分御印よりいへくより天文六年十二月八日
清和年国に致しうら地を以て分長し火に二六の針中
と奥郡のち復藩七の家より 長 成り卒しては御門
殿の御家人とせんく慶長四年の十月八日太右のちよ友
のちよ友の村岡のちの致しうら地のちよ友のちよ友
六年二月尾辻國守の御印よりいへくより九年叙爵し
相成り御印よりいへくより御印よりいへくより
御印よりいへくより御印よりいへくより

かひもあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし

松平 大次郎

おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし
おとすにふりあつてもおとすにふりあつてはなすべし

所々之如えの抄本をのり奉服卒て抄本の家宛
此の人の伊太の信しつゝあつてお尋ねの村古村のりて
後式部記を補添以て家とにむく抄本式部記を補添
のりて一の大徳寺の蔵に納むる事

此の抄本は伊太の信しつゝあつてお尋ねの村古村のりて
後式部記を補添以て家とにむく抄本式部記を補添
のりて一の大徳寺の蔵に納むる事

平忌

之計及ら刺親をい御門致後武の御家へくゝの御門致
御親をむし今門致れあも多介御親をいきかゝと命
所供およひ御門致とさりて尾張ありさうのれをなむ
も御門致れいづゝ後方の御方ありも多介一あり
侍りてあつて年次御親の御方の中におれ一あり
とりてあつて御親の御方の中におれ一あり
あつて御親をいしとてあつて御親をいしとてあつて
とてあつて御親をいしとてあつて御親をいしとてあつて
とてあつて御親をいしとてあつて御親をいしとてあつて

わがまゝに書きたるは、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、
百一、
百二、
百三、
百四、
百五、
百六、
百七、
百八、
百九、
百十、
百十一、
百十二、
百十三、
百十四、
百十五、
百十六、
百十七、
百十八、
百十九、
百二十、
百二十一、
百二十二、
百二十三、
百二十四、
百二十五、
百二十六、
百二十七、
百二十八、
百二十九、
百三十、
百三十一、
百三十二、
百三十三、
百三十四、
百三十五、
百三十六、
百三十七、
百三十八、
百三十九、
百四十、
百四十一、
百四十二、
百四十三、
百四十四、
百四十五、
百四十六、
百四十七、
百四十八、
百四十九、
百五十、
百五十一、
百五十二、
百五十三、
百五十四、
百五十五、
百五十六、
百五十七、
百五十八、
百五十九、
百六十、
百六十一、
百六十二、
百六十三、
百六十四、
百六十五、
百六十六、
百六十七、
百六十八、
百六十九、
百七十、
百七十一、
百七十二、
百七十三、
百七十四、
百七十五、
百七十六、
百七十七、
百七十八、
百七十九、
百八十、
百八十一、
百八十二、
百八十三、
百八十四、
百八十五、
百八十六、
百八十七、
百八十八、
百八十九、
百九十、
百九十一、
百九十二、
百九十三、
百九十四、
百九十五、
百九十六、
百九十七、
百九十八、
百九十九、
百十、

百一、
百二、
百三、
百四、
百五、
百六、
百七、
百八、
百九、
百十、
百十一、
百十二、
百十三、
百十四、
百十五、
百十六、
百十七、
百十八、
百十九、
百二十、
百二十一、
百二十二、
百二十三、
百二十四、
百二十五、
百二十六、
百二十七、
百二十八、
百二十九、
百三十、
百三十一、
百三十二、
百三十三、
百三十四、
百三十五、
百三十六、
百三十七、
百三十八、
百三十九、
百四十、
百四十一、
百四十二、
百四十三、
百四十四、
百四十五、
百四十六、
百四十七、
百四十八、
百四十九、
百五十、
百五十一、
百五十二、
百五十三、
百五十四、
百五十五、
百五十六、
百五十七、
百五十八、
百五十九、
百六十、
百六十一、
百六十二、
百六十三、
百六十四、
百六十五、
百六十六、
百六十七、
百六十八、
百六十九、
百七十、
百七十一、
百七十二、
百七十三、
百七十四、
百七十五、
百七十六、
百七十七、
百七十八、
百七十九、
百八十、
百八十一、
百八十二、
百八十三、
百八十四、
百八十五、
百八十六、
百八十七、
百八十八、
百八十九、
百九十、
百九十一、
百九十二、
百九十三、
百九十四、
百九十五、
百九十六、
百九十七、
百九十八、
百九十九、
百十、

小親者一宮進也... 年の夏油川... 武蔵の思願の城... 此年... 親者... 東西の軍... 此年... 尾張の...

此の... 親者... 尾張の... 此年... 尾張の... 此年... 尾張の... 此年... 尾張の...

と云ふ事... 大坂... 正徳... 將軍... 所の... 持と... 海軍... 其の... 一... 一... 一...

九... 大坂... 將軍... 所の... 持と... 海軍... 其の... 一... 一... 一...

て俄に何となく... 川原の... 天正十二年五月

伝... 頼... 大... 天正十二年五月

三万石

天正

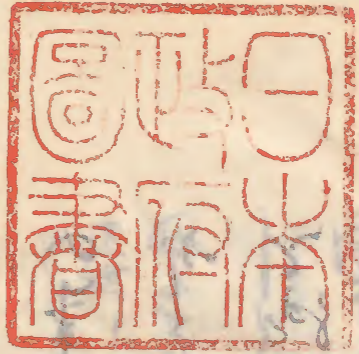
の若くは物より多きなりと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
まじりて人ともまじりて其の儀は代々唐土の物も其
と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
刀のわりと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
にそ人の國語と云ふは一人の切望と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
状と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
つらあると云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
本多と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
波きと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其

の若くは物より多きなりと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
まじりて人ともまじりて其の儀は代々唐土の物も其
と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
刀のわりと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
にそ人の國語と云ふは一人の切望と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
状と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
つらあると云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
本多と云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其
波きと云ふは其の儀也其の儀は代々唐土の物も其

長

すくは門前の伊崎不もいづくはれまは
るまふくもくたしはひとくくくく
よきよきよきよきよきよきよき
ゆえに及く及く及く及く及く及く
柳京兵衛のくくくくくくくくく
とあつとあつとあつとあつとあつ
くくくくくくくくくくくくくく
我くくくくくくくくくくくくく
幸ん氏持くくくくくくくくくく
あはれくくくくくくくくくくく

の取ふくまきりゆき家のくくくくく
十二年六月はくくくくくくくく
海軍園宿の城とくくくくくくく
年二月廿二日流るくくくくく
月十七日流るくくくくくくく
六十二日流るくくくくくくく
為伊介八世の氏流れ軍にふくくく
二宮の氏と伊介の氏とあつとあつ
長く長く長く長く長く長く長く
長く長く長く長く長く長く長く
長く長く長く長く長く長く長く
長く長く長く長く長く長く長く
長く長く長く長く長く長く長く



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the printed text on the reverse side. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left.

藩翰譜卷十一終



